

四三二七番

我が妻も 絵に描き取らむ 暇もが 旅行く我
は 見つつ偲はむ

四三二八番

大君の 命恐み 磯に触り 海原渡る 父母を
置きて

四三二九番

八十国は 難波に集ひ 舟飾り 我がせむ日ろを
見も人もがも

四三三〇番

難波津に 装ひ装ひて 今日の日や 出でて罷ら
む 見る母なしに